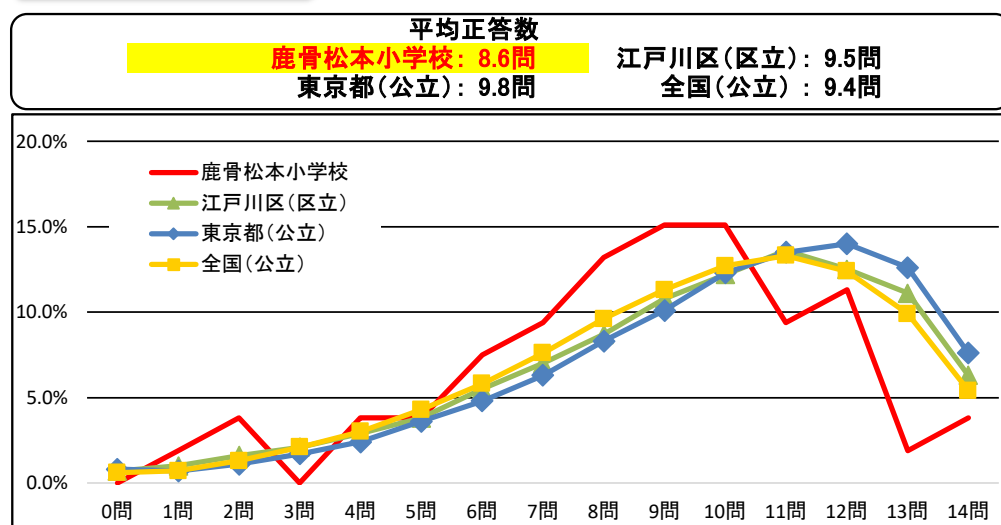


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】 鹿骨松本小学校

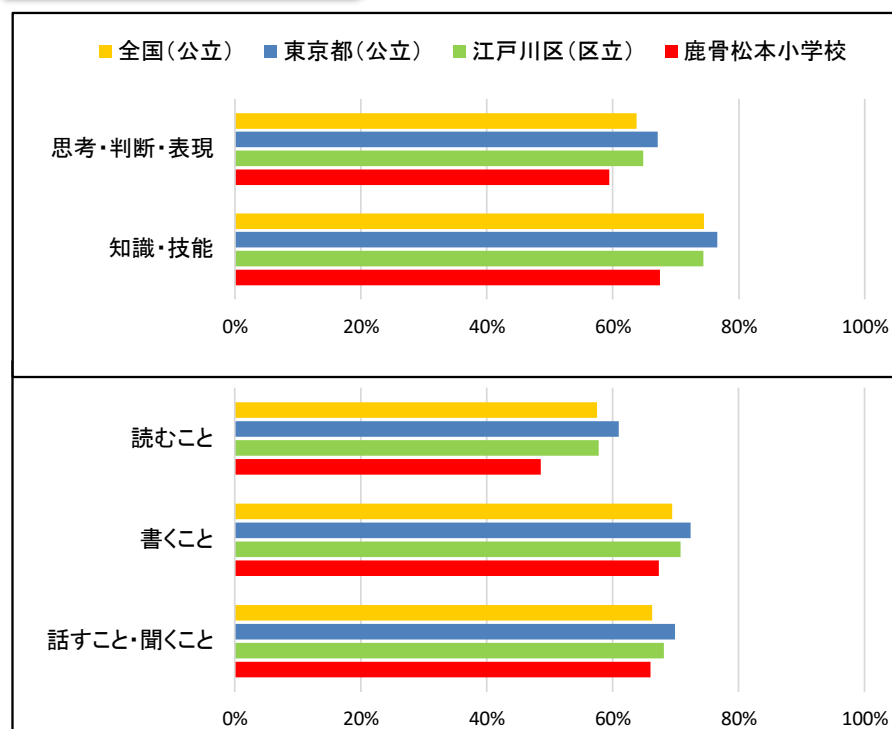
正答数分布



【平均正答率の差】

鹿骨松本小学校	62%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	66.8%
都との差(ポイント)	-8.0

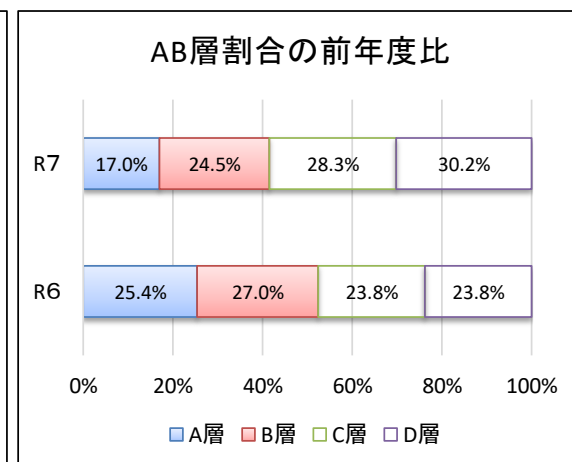
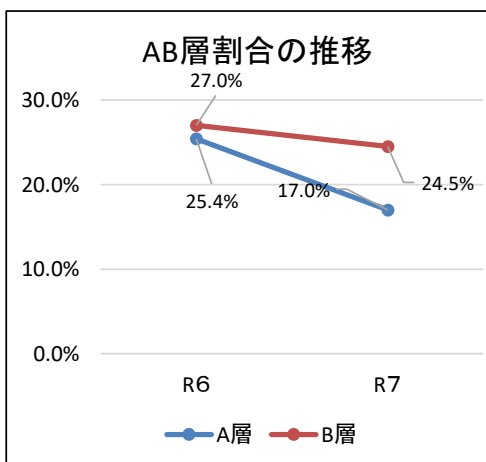
「領域別」の結果



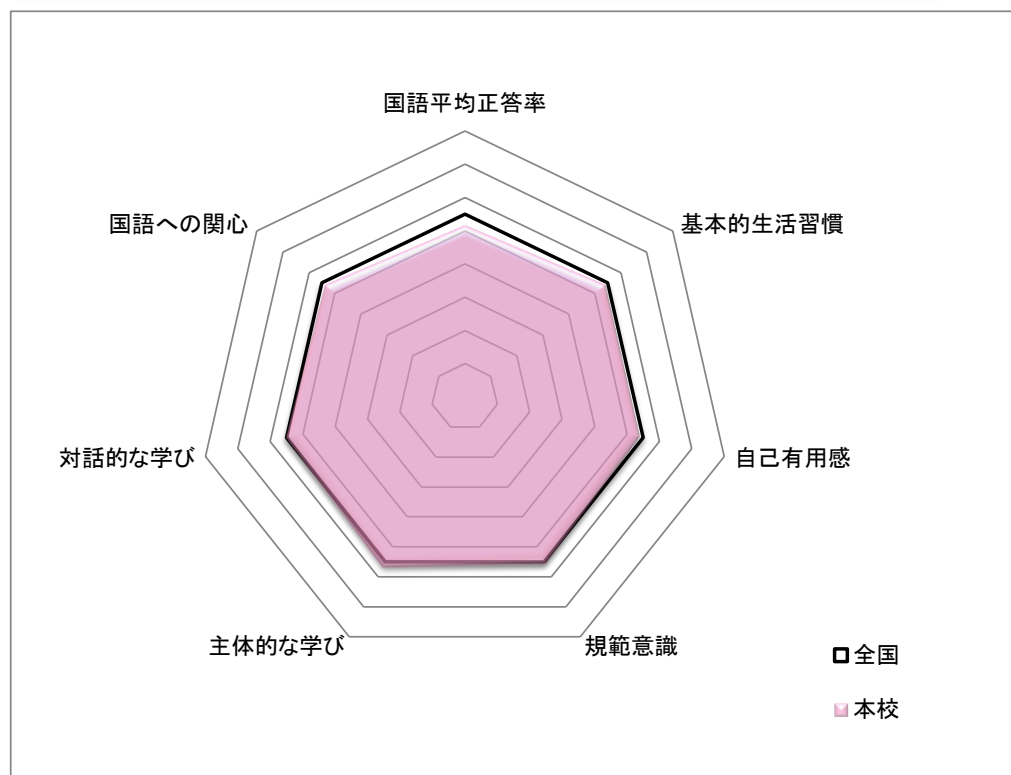
四分位における割合（都全体の四分位による）

国語	上位 ← 下位			
	A層 12～14問	B層 10～11問	C層 8～9問	D層 0～7問
鹿骨松本小学校	17.0%	24.5%	28.3%	30.2%
江戸川区(区立)	30.0%	25.8%	19.5%	24.7%
東京都(公立)	34.4%	25.8%	18.4%	21.4%
全国(公立)	27.7%	26.0%	20.9%	25.4%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

- ・「国語への関心」に関わる内容である「国語が好き」に肯定的な回答をした児童は46.3ポイントで、全国58.3と比較し-12ポイントであった。
- ・「国語の授業がよく分かる」に肯定的な回答をした児童は87.0ポイントで、全国82.8と比較し+4.2ポイントであった。
- ・自己有用感、規範意識に肯定的な回答をした児童は全国と同程度であった。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・家庭での毎日の読書習慣づくりを協力してもらう。
- ・宿題の計画的な実施と振り返りの声かけをしてもらう。
- ・分からないことを調べる学習姿勢の定着支援をしてもらう。
- ・地域図書館の活用や家庭での読書環境づくりをしてもらう。

《現状把握》

- AB層の割合と取組内容について
- ・平均正答率62%で都より8pt低い。A層17%・B層24.5%と上位層が少なく、C層28.3%・D層30.2%と高い。
- ・「読むこと」が48.6%と最も低く、文章構造把握や根拠に基づく読み取りが課題。
- ・基礎学力の定着が今後の重点課題である。

《学校の取組》

- ・教員の指導力向上
- ・四分位でA・B層が全体の41.5%と都より低い状況を踏まえ、授業改善を組織的に進める。
- ・主語・述語・要旨把握など、つまづきが見られる基礎読解スキルを明確化し、指導法を共有する。
- ・「読むこと」に関する校内研修を増やし指導の質をそろえる。

・基礎学力の保障

- ・「読むこと」の正答率が48.6%と大きな課題のため、日常的な音読・要約・指示文読みの指導を継続する。
- ・朝学習(週2回国語)で語彙・文法・短文理解の反復練習を位置づける。
- ・よむYOMUワークシートを継続し新聞を使った読解機会を増やす。

・学習習慣の確立

- ・学期1回の江戸川っ子study week(家庭学習週間)を充実させ、振り返りを通して学習習慣の定着を促す。
- ・昼読書の時間を充実させ日常的に文章へ触れる機会を増やす。
- ・家庭での学習時間の差を縮める働きかけを継続する。

・AB層の育成

- ・AB層が全国・都と比べて低い割合であることから、基礎的課題の確実な定着を図るために、語彙指導を充実させ読解に生かす等の学習サイクルを強化する。
- ・AB層に共通する課題である「読み取りの精度」と「理由づけの弱さ」を改善するため、朝学習(国語)やよむYOMUワークシートで継続的な読解練習を進める。
- ・書く活動と説明する活動を増やし、「自分の考えを筋道立てて表す」力を育成する。
- ・個別最適な学習(タブレットのドリル活用等)を組み合わせ、AB層へ到達するための小さな成功体験を積み重ねる。